

【GPS、キッズ携帯を持たせますか？】

- GPSがないと、子どもの現在地が解らなくて不便。
- すでに個人契約のGPSを持っている。
- すでにココセコムを個人契約している。(10回まで無料で所在確認可)
- 公衆電話が少ない。
⇒キッズ携帯があれば、保護者は子どもの現在地が解り、連絡も取れる。
子ども間のトラブルが心配なので、ルールは必要。
- キッズ携帯はがあると便利。(使い方次第)
- キッズ携帯について、ルールを決めて持たせたい。
- キッズ携帯などは持っている(首などにかけておく)だけで防犯になるのでは？
- 時間に変更がある場合、保護者に連絡ができる。
- 必要なときのみ、キッズ携帯を持たせている。
- 奥田交番の件を話し、どこにいるかわからないと助けられないと認識させた。

【普段から子供の通学時の安心・安全の為に工夫していることは？】

- 毎朝、親子で1日のスケジュールを確認する
- テレホンカードを持たせ、有事の際に公衆電話が使えるようにしている。
- テレカだけでなく、小銭を持たせている。
- 緊急時の対応を事前に子供と話してある。
 - 雪などの天災時にどうするかなど、決め事を作っておく
 - 通学路の危険ポイントを確認
 - 変な人と目を合わせない
 - 何かあったら保護者にTELする(公衆電話、携帯)
 - 110番の家を確認
- 抜き打ちで登下校の様子をチェックしている
- 登校ルートを確認している。違うルートを利用しない。
- 変なところに行かないように、子供に言い聞かせてある。
- 「何かあったら助けてください」と地域に呼びかけてある
- 時間の意識を持たせている。
- 心のゆとりを持つように
- 一緒に登校している
- (低学年の間は)最寄りの駅やバス停まで送迎する
- 集団登校できるように登校時間を調整している
- 歩道に広がって話ながら歩かない。傘や定期券を振り回さない。
- 挨拶を通じて近所の人らと顔見知りになる。
- とにかく走らない
- 一人の時間を出来るだけ作らない
- 親が子どもの通学路を把握する

- ハザードマップなどを作り、有事の際の確認をしておく
- バスの運転手の近くに座るなど
- 登下校時は名札を出さない
- 通学路の危険箇所、避難箇所（子ども 110 番の家）、公衆電話の場所を確認している
- 制服を着ている人に声を掛ける
- 不審者を見たら特徴を覚えておくようにしている。
- 地域の人と挨拶を通じて繋がりを持つようにしている。
- 保護者同士で見張りができるように日頃からコミュニケーションを取る
- 大和、ドリーインなどの避難所を話ししておく（挨拶もしておく）
- 最寄りの駅、バス停まで迎えに行く。
- 送迎のある学童を利用する
- 学童と連絡を取り、所在を確認している。
- 不測の事態に際、うまく話せないことを想定し、メモを持たせている。
- 大きくなると忘れがちな交通ルールについて親子で再確認しておく。
- 保護者の方から登下校の話聞くようにしている。
- ニュースの活用、学校からの連絡について、どうすればいいか一緒に考える。
- 帰宅時に保護者に連絡するようにしている ⇒ 防犯意識を持たせる
- 富山市の防犯メールに登録して、不審者情報を把握している。
- 防犯メールを子どもと話している
- 保護者と連絡がつかない場合でも、自分で考える力を身に付けさせる。
- 一人でも冷静な判断とあきらめない気持ちを持たせる。

【子供に携帯端末（親の携帯、タブレット等）の使用について、どのようなルールが必要？】

- （習い事がある時など）必要な時のみ使用している。
- 携帯はルールを決め、守らないようであれば持たせないことを徹底すべき。
- タブレットのルールを決めている。（親の監視下。ゲームはさせない。時間を制限している）
- 子どもと一緒に家族のルール（場所、親の管理、LINE）を決める。
- 携帯などの使用時のマナーについて話している。
- 破った時のルールも決めている。
- ネット使用後に履歴をチェックしている。
- スクリーンタイム（どのサイトをどのくらい使ったかわかる）機能を活用している。
- 保護者も子どもの前では使わないようにしている。
- 子どもが（使う目的、タイミング、時間など）自分で考えてくれるように促している。
- ネットの危険性についてよく話し合っている。
- 端末のメリット・デメリットについて子どもと話をしている。
- 常にバッテリー量を30%くらいにしている。
- 基本的に端末の使用は禁止している。（携帯端末がない状態に慣れさせる）
- IT 端末、子供に悪影響（川島隆太（東北大））などの著書を参考にしたらいい。